

(3) 1989年C&C賞受賞者



高木 昇博士

- 東京大学名誉教授
- 東京工科大学学長

日本における一連の科学衛星に関する開発及び
その実施成功に対する指導的貢献

略歴と主なる業績

・高木昇博士は、現在、東京工科大学の学長であり、また、日本電子部品信頼性センター名誉理事長であられる。

・同博士は、明治41年、東京に生まる。昭和6年、東京帝国大学工学部電気工学科を卒業され、次いで、理化学研究所、東京工業大学、日本大学等において、研究並びに教育に従事された。

・昭和17年5月、東京大学より、工学博士の学位を授与さる。続いて東京大学第二工学部教授（昭和17年～25年）、同生産技術研究所教授（昭和25年～39年）、同宇宙航空研究所初代所長（昭和39年～44年）を歴任された。

・この間に、同博士は、広い分野にわたって研究を遂行された。その主なるもの挙げれば、電気通信用人工圧電気結晶および水晶フィルター、非破壊検査用超音波疵発見器、厚み計、電力送電線にのせる多端子テレメーターおよび搬送リレーシステムの開発等である。

・特に、昭和30年以来、東京大学内に、高層観測ロケットの開発の為の研究グループが発足し、同博士はそのプロジェクト・マネージャーに任命された。そしていろいろな種類のロケット、ロケット搭載用計器、各種の地上施設、例えば追尾レーダー並びにテレメーターシステム等の研究開発に全力を注がれた。幾多の失敗も経験されたが、遂にわが国初の科学衛星を軌道にのせることの成功として実を結ばれた。

・同博士はまた、昭和31年以来、国際電気標準会議（IEC）の総会、理事会、および技術委員会に参加し、活発な活動を続けられた。そして、昭和52年のモスクワ総会において、IEC会長に選任された。続いて昭和55年には、Immediate Past Presidentとして、また昭和58年からは前会長として毎年総会に出席され、IECの活動に寄与されている。そして本年、英国ブライトンの総会において、永年IECに尽された功績に対し賞牌を贈与された。

・同博士は、昭和33年より、信頼性工学を米国より導入し、その奨励に努められた。そして日本科学技術連盟内に、信頼性委員会をつくり、その委員長に就任され、現在に及んでいる。

・また昭和52年には、IEEE Tokyo SectionのChairmanを努められ、引き続き同役員をしておられる。

・なお、昭和58年1月12日には、皇居内において、宇宙電子工学について、昭和天皇に御進講の榮譽を持たれた。

その他の主なる要職

- ・日本非破壊検査協会会長（昭和32年～34年）
- ・電子通信学会会長（昭和38年～39年）
同技術委員会委員長（昭和39年～41年）
同標準委員会委員長（昭和41年～60年）
- ・テレビジョン学会会長（昭和39年～40年）
- ・科学技術庁 宇宙開発推進本部長（昭和39年～44年）
- ・日本学術会議 第7期会員（昭和41年～44年）

その他の主なる受賞

- ・電子通信学会 功績賞（昭和40年）
- ・電気学会 功績賞（昭和43年）
- ・日本放送協会 第21回放送文化賞（昭和45年）
- ・紫綬褒賞（昭和47年）
- ・勲二等旭日重光賞（昭和53年）
- ・IEEE Fellow Grade Member. (1981年・昭和56年)

齊藤成文博士



- 東京大学名誉教授
- 宇宙開発委員会委員長代理

日本における一連の科学衛星に関する開発及び
その実施成功に対する指導的貢献

略歴と主なる業績

- 齊藤成文博士は、大正8年、東京に生まる。
- 昭和16年、東京帝国大学電気工学科を卒業、昭和26年工学博士の学位を受けらる。
- 第二次大戦の時期には、海軍技術研究所において、マイクロ波レーダシステムの研究に従事された。
- 戦後、昭和22年、東京大学助教授に任命された。昭和30年より昭和32年まで、フルブライト研究員として、米国のマサチューセッツ工科大学のエレクトロニクス研究所に滞在し、主として電子ビームの雑音問題およびVHF低雑音電子管の研究に従事された。
- 同博士は、昭和32年より昭和55年まで、東京大学生産技術研究所教授として在任され、エレクトロニクスの分野に対するマイクロ波およびレーザ応用研究に従事された。
- また、昭和39年より昭和55年までは、同大学宇宙航空科学研究所教授も兼務され、科学衛星開発プロジェクトを担当、宇宙電子技術の研究開発に従事され、我が国の科学衛星打ち上げに、多大の成果を挙げられた。
- さらにまた、昭和44年より昭和49年まで、わが国の宇宙開発事業団理事をも兼ねられた。そして昭和49年には、日本政府の宇宙開発委員会委員に任命された。
- 同博士は、昭和55年に、東京大学を退官され、同時に東京大学名誉教授の称号をうけられた。そしてまた同時に宇宙開発委員会の常勤委員に任ぜられた。さらに昭和61年には宇宙開発委員会委員長代理に就任され、現在に及んでおられる。
- また、昭和49年より昭和59年まで、郵政省の電波技術審議会委員に任ぜられ、その間、最後の2年間には、同審議会会長を務められた。また昭和60年以来、同じく郵政省の電気通信技術委員会の会長の任にあられる。
- なお、昭和51年より昭和55年まで、国際宇宙航行連盟の副会長を務められた。また昭和54年度の日本電子通信学会会長に選ばれた。さらに、昭和42年（1967年）より昭和51年（1976年）まで、IEEE・Spectrumの編集委員会委員を務められた。

主なる表彰等

- 電波の日、宇宙電子技術開発への貢献により郵政大臣表彰（昭和46年）
- 恩賜発明賞（日本発明協会）（昭和50年）
- 電子通信学会功績賞（昭和51年）
- 世界コミュニケーション年内閣総理大臣賞（昭和59年）
- 紫綬褒賞（昭和59年）
- テレコム旬間・郵政大臣表彰（昭和63年）
- IEEE・Fellow Grade Member（1974）



野村民也博士

- ・東京大学名誉教授
- ・芝浦工業大学教授

日本における一連の科学衛星に関する開発及び
その実施成功に対する指導的貢献

略歴と主なる業績

・野村民也博士は、現在、芝浦工業大学電気工学科教授として、後進の育成・指導にあたっておられる。

・野村博士は、大正12年9月3日、東京に生まる。昭和20年9月、東京帝国大学第二工学部電気工学科卒業後、4年間を大学院特別研究生として過された後、昭和24年5月、東京大学生産技術研究所助教授となられ、昭和37年1月、同教授に昇任された。

・昭和40年4月、東京大学宇宙航空研究所にうつられ、昭和54年4月より56年3月に至る間、同研究所所長を務められた。

・昭和56年4月、同研究所が、文部省直属の、国立大学共同利用機関としての宇宙科学研究所に改組されたのに伴って同研究所に移り、副所長、および最初の2年間は対外協力室長を、次いで企画調整主幹を兼ね務められた。

・昭和62年3月、定年の定めにより同研究所を退官し、現在の芝浦工業大学教授に就任された。

・またこの間に、併任として、昭和50年より54年にかけては、文部省学術国際局科学官として、また、昭和53年より62年にかけては、宇宙開発事業団の非常勤理事を務められた。

・研究生生活の初期には、自動制御に興味を持たれ、これに関連して電子アナログ計算機の研究に従事され、それによって東京大学より工学博士の学位を受けられた。

・昭和30年に東京大学生産技術研究所内に、昭和32～33年の国際地球観測年に間に合うよう観測ロケットを開発することを目的とした宇宙技術の研究グループが編成された。このことに伴い、野村博士はこれに参加されることとなった。

・当初の担当は遠隔測定システムの開発であったが、これを契機として、以後約35年の長きに亘って、我が国の宇宙科学研究、そしてその延長としての実用分野の宇宙開発に関わる技術面の研究・開発に携わられることとなった。

・昭和45年には、計画主任として、我が国最初の人工

衛星「おおすみ」の打ち上げに成功された。この成功を期に、我が国の宇宙科学研究は科学衛星の時代を迎え、今日、世界的に高い評価を得た多くの成果を挙げるに至ったのである。

・昭和59年には東京大学より、また同62年には文部省宇宙科学研究所より、それぞれ名誉教授の称号を受けられた。現在、国際宇宙航行アカデミーの理事をしておられ、また日本工学アカデミーの会員でもあられる。

主なる受賞

・電子通信学会業績賞、電気学会進歩賞「電波の日」郵政大臣表彰等、数々の荣誉ある賞を受けておられる。